

「賀川豊彦のお宝発見」 その3

新聞記事にみる賀川豊彦 (50)

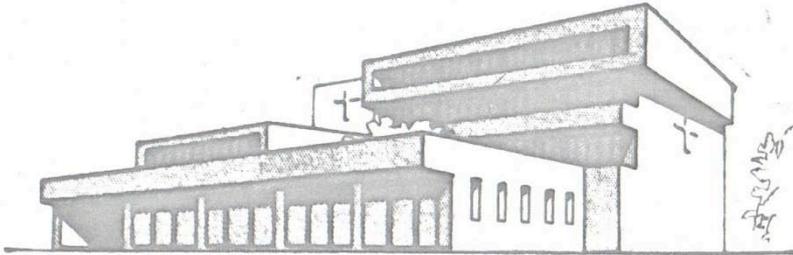
1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第50回 「賀川記念館の起工・完成」

「賀川記念館の起工」

1962 (昭和37) 年6月3日 「神戸新聞」

記念館の完成予想図



「世界に平和を、日本に救いを」と一生を社会事業につくし、二年前に七十一歳でなくなった賀川豊彦氏を記念する賀川記念館の起工式が二日前十一時から神戸

善意の人たちのメッカに…

賀川記念館きのう起工



賀川記念館起工式でクワ入れをする阪本兵庫県知事

戸市暮合区吉妻通五ノ三、イエス団敷き地で行なわれた。賀川精神を永久に生かすため同氏の出发点である神戸新川に近代的な社会事業センターを建設しようというもので、賀川記念厚生

事業団の阪本理事長(兵庫県知事)や宮崎神戸市助役、賀川未亡人ハルさん(もろら百四人が集まった。式はユリの花がにおい賛美歌が流れる中で行なわれ、阪本理事長は「私を、象牙の塔から街頭へ引き出したのは賀川さんだ。この建て物が世界の善意の人のメッカになるように」とあいさつした。

記念館は鉄筋四階建て、延べ千平方メートルで来年末に完成、乳児院、保育所、社会問題研究などの事業をする。工費四千万円の大半は一般の募金によることになっているが、賀川氏の世話になった貧しい人たちの浄財などですでに二千八百万円が集まっている。

写真は賀川記念館起工式でクワ入れをする阪本兵庫県知事

“善意の人たちのメッカに・・・”

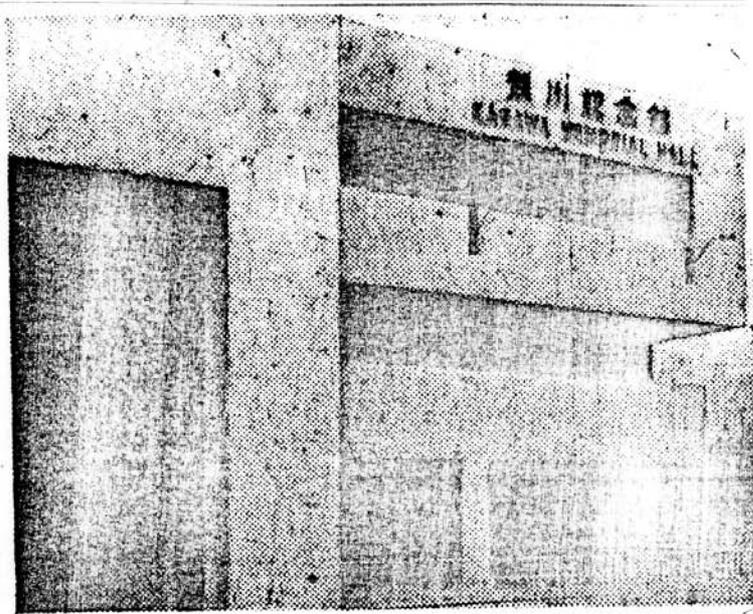
賀川記念館きのう起工

「世界に平和を、日本に救いを」と一生を社会事業につくし、二年前に七十一歳でなくなった賀川豊彦氏を記念する賀川記念館の起工式が二日午前十一時から神戸市葺合区吾妻通五ノ三、イエス団敷き地で行なわれた。賀川精神を永久に生かすため同氏の出発点である神戸新川に近代的な社会事業センターを建設しようというもので、賀川記念厚生事業団の阪本理事長（兵庫県知事）や宮崎神戸市助役、賀川未亡人ハルさん（七二）ら百四人が集まった。式はユリの花がにおい讚美歌が流れる中で行なわれ、阪本理事長は「私を“象牙の塔”から街頭へ引きだしたのは賀川さんだ。この建て物が世界の善意の人のメッカになるように」とあいさつした。

記念館は鉄筋四階建て、延べ千平方メートルで来年末に完成、乳児院、保育所、社会問題研究などの事業をする。工費四千万円の大半は一般の募金によることになっているが、賀川氏の世話になった貧しい人たちの浄財などですでに二千八百万円が集まっている。

「賀川記念館できる」

1963（昭和38）年2月20日「神戸新聞」



完成した賀川記念館

働く母に保育施設

モダンな
四階建て
賀川記念館できる

神戸市真谷区は裏通五ノ三、イ「念館」がこのほど完成した。鉄筋
エス図敷き地に建設中の「賀川記」四階建て約千平方メートル、一階は貸

し事務所、二階は保育所、乳児院
夜間保育所、三、四階は集会所に
なっている。働く母たちのために
館内に三つの保育施設があるのが
特色で、生活相談に応じるための
へやも教室用意されている。この
ほか、こどものための屋上遊戯
場、砂場などもある。

同記念館は「世界に平和を、日
本に救いを」と一生を社会事業に
つくし、三年前に七十一歳でなく
なった賀川豊彦氏を記念するため
につくられた。建設地は賀川さん
がスタートを切ったゆかりのとい
るので、工費七千万円の約半額は一
般の寄金にたよった。この中には
「賀川さんにはほんとうにお世話

になりました」という地区の老婦
人の百円、二百円の寄金もまじっ
ている。去年六月に普工、途中に建
設の中心になっていた三浦清一牧
師（興譲）の死亡、阪本勝賀川記
念学生事業団理事長の知事辞任な
ど障害もあったが、関係者の努力
で完成にこぎつけた。三月中旬に
完成式を行ない、事業を始めるが
同館では「関西学院大学の学生プ
ループなど応援の申し込みが多数
舞い込んでいる。ここを関西の社
会事業のメッカにしたい」といっ
ている。

（2011年4月25日記す。鳥飼慶陽）

“働く母”に保育施設

モダンな四階建て 賀川記念館できる

神戸市葺合区吾妻通五ノ三、イエス団敷き地に建設中の「賀川記念館」がこのほど完成した。鉄筋四階建て約千平方メートルで、一階は貸し事務所、二階は保育所、乳児院夜間保育所、三、四階は集会所になっている。働く母たちのために館内に三つの保育施設があるのが特色で、生活相談に応じるためのへやも数室用意されている。このほか、こどものための屋上遊戯場、砂場などもある。同記念館は「世界に平和を、日本に救いを」と一生を社会事業につくし、三年前に七十一歳でなくなった賀川豊彦氏を記念するためにつくられた。建設地は賀川さんがスタートを切ったゆかりのところで、工費七千万円の約半額は一般の寄金にたよった。この中には「賀川さんにはほんとうにお世話になりました」という地区の老婦人の百円、二百円の寄金もまじっている。去年六月に着工、途中で建設の中心になっていた三浦清一牧師（県議）の死亡、阪本勝賀川記念厚生事業団理事長の知事辞任など障害もあったが、関係者の努力で完成にこぎつけた。三月中旬に完成式を行ない、事業を始めるが同館では「関西学院大学の学生グループなど応援の申し込みが多数舞い込んでいる。ここを関西の社会事業のメッカにしたい」といっている。